

第34期第4回京都市社会教育委員会議の模様を マナビがレポート！



令和2年6月23日（火）京都市総合教育センターで、第34期京都市社会教育委員会議の第4回会議が開催されました。「新しい生活様式における生涯学習について」や、「生涯学習の情報発信について」の議論がされました。会議の模様をマナビがレポートします！

■ 出席委員（17名のうち13名） ※五十音順

石川 一郎 委員, 稲垣 恭子 委員, 大澤 彰久 委員, 櫻井 寿美 委員,
鈴鹿可奈子 委員, 園部 晋吾 委員, 田村 穂絵 委員, 豊田まゆみ 委員,
廣岡 和晃 委員, 本郷 真紹 委員, 柁木 良子 委員, 森 清頭 委員,
吉川左紀子 委員 下線の委員はオンラインによる出席

第34期第4回社会教育委員会議次第

1 議 事

- (1) 「新しい生活様式」における生涯学習について
- (2) 生涯学習の情報発信について
- (3) 令和2年度「全国社会教育研究大会新潟大会」への出席者について

2 報 告

令和2年度「指定都市社会教育委員連絡協議会」について

3 主催事業及び刊行物の案内

■ 挨拶（在田教育長）

新型コロナウイルスが少し落ち着いている状態とはいえ、まだまだ心配な中、御出席いただき誠にありがとうございます。また、委員の皆様の日頃からの様々な御支援・御協力にも重ねて感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大につきましては、人間の最も根源的な行動様式、人と人とのふれあいや、コミュニケーションの部分に制約がかかるという社会活動を担う上で、非常に厳しい状況であり、市民生活、学校教育、生涯学習に大きな影響を与えております。

本市の学校・幼稚園におきましては、約3か月の臨時休業の後、6月1日からは隔日登校、分散登校というかたちで教育活動の再開を模索し、様々なシミュレーションを経まして、6月15日からようやく全面的に再開いたしました。

アスニーや図書館等の社会教育施設につきましても、段階的にサービスを再開しておりますが、一部催し等の中止や延期は続けております。

このように感染拡大防止対策を図りながら社会生活、経済活動を再開していくために新しい生活スタイルというものを模索し、その中で新しい時代を築いていく必要があると考えております。

そういった中で、吉川議長と相談させていただき、本日は三つの密を避けるかたちで実施し、稲垣委員、森委員、田村委員にはオンラインで参加いただくという新しいかたちで開催させていただくことになりました。

今日の議事といたしましては、『新しい生活様式』における生涯学習について」や「生涯学習の情報発信について」となっております。

全国的に新しい生活様式のもとで、オンラインの講座やウェブでの配信など、新たな生涯学習の実践が広がりつつあります。感染拡大の防止対策が長期化する中で、更なる工夫が求められていると思っております。生涯学習の効果的な情報発信につきましても、委員の皆様もこの間、いろいろと考えておられることがあると存じますので、活発な御議論をいただきまして、新しい生活様式における新たな生涯学習の道筋へと繋がる一歩としたいと考えております。

■ 教育委員会事務局人事異動の紹介

令和2年4月1日付けで大黒生涯学習部長が着任

- 大黒 喜裕 生涯学習部長（京都市教育委員会）

WITH コロナの中での生涯学習というものを皆様と一緒に考えていけたらと思っております。よろしくお願いいたします。

■ オブザーバー参加の紹介

松岡 直子 京都市立祥栄小学校長がオブザーバー参加

■ 開会（吉川議長）

落ち着いた状況の中、多くの委員の皆さんに御参加いただき、大変ありがたく思っております。



■ 34期社会教育委員自己紹介

- 稲垣 恭子 委員（京都大学大学院教育学研究科教授） ※オンライン出席



京都大学教育学研究科の教育社会学講座に所属しております。研究の関心は教養の系譜やアニメ文化から成長物語、広く教育文化という視点から日本の教育を支えてきた文化の仕組みを研究してきました。

社会教育委員として3期目となりますが、改めて京都には文化遺産も多くあり、教育文化の面で豊富なアドバンテージがあると思っております。また、市民活動や教育活動も非常に活発に行われていることを改めて知り、刺激をいただいているところです。

文化の発信の仕方もいろいろと変わっていくと思いますが、私自身も学んでいきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

■ 議事ー1 「新しい生活様式」における生涯学習について

■ 議事ー2 生涯学習の情報発信について

- [配布資料 「新しい生活様式」における生涯学習について](#)

報告者（京都市教育委員会 生涯学習部 吉川 昌成 生涯学習推進課長）

- [YouTube 動画「おうちで料亭ごはん」紹介]

- 園部 晋吾 委員 (NPO法人日本料理アカデミー地域食育委員会委員長, 山ばな平八茶屋若主人)



今、コロナの影響で私たち料理屋には全然、お客様がお越しにならない状況で少しでもおうちで何かしていただけないか、ということで、このような動画を配信させていただきました。京都新聞、京都市、京都府の皆さんの御協力のもと、それぞれ食材、テーマを決めまして料理を作っていくという動画を順番に繋いでいっております。

- [Facebook「給食レシピに挑戦」紹介]

- 大澤 彰久 委員 (平成30年度京都市PTA連絡協議会会長)

学校が休校になりまして、子どもたち、特に小学生は家にいることが多く、退屈な日々を過ごしていました。親は子どもたちが家にいるのでお昼ごはんを準備しないとイケないのですが、何を作ったらよいのか悩んでしまう、という方もいらっしゃる、また、子どもたちは学校に行きたいけど行けないし、給食も食べたいという思いがある、というお声をお聞きしました。そこで、教育委員会のホームページで公開されている給食のレシピを親子で作ったら、家で給食も食べられるし、楽しいのではないかとということになりました。



PTAからお声かけをして、多くの親子に協力していただき、15ほどの献立作成に挑戦した感想や写真を、京都市PTA連絡協議会のFacebookに掲載しています。

小学生を主に考えていたのですが、意外と高校生が「昔こんな食べたな。」「懐かしいな。」と、普段は料理をしないのに作るのを手伝ってくれたり、当初考えていたのとは違った発見もあり、御好評いただきました。

6月から分散登校、隔日登校が始まったので、一旦は、5月31日でこの企画は終わったのですが、また、違ったかたちで「給食レシピに挑戦」を京都市PTA連絡協議会のホームページ等で情報発信していきたいと考えています。

本日配られている「PTAしんぶん」にもQRコードが載っていますので、読み取っていただいて京都市PTA連絡協議会のFacebookのページを見ていただけたらと思います。

飲食店関係のお父さんお母さんもいらっしゃいますので、プロの出来栄の写真を掲載するのが、ハードルを上げてしまわないかと悩んだという裏話もございますが、これからも情報発信をしていきたいと思っております。

- [YouTube 動画による授業紹介]

- 松岡 直子 校長 (京都市立祥栄小学校)



6月からようやく学校が始まって、誰がホッとしているかといいますと、学校関係者の大人の方かと思っております。子どものいない学校は居心地の悪いものでした。また、子どもたちもどう過ごしているのか心配な2か月でした。

新学期になって新しい学習を進めていかなければならない時期に学校に来られないわけですので、本校では動画を使って子どもたち

に配信するというかたちで学習を進めてみようということになりました。合わせて、Zoomを使って子どもたちと教職員が繋がってみるということもいたしました。本校には、たまたまこういったことに堪能な教職員がいましたので取り組むことができましたが、全てが「試み」でありました。第2波、第3波の不測の事態に備える意味も含めて、まずはいろいろなことをやってみようということでしたが、動画を配信した日は、アクセス数が格段に増えましたので、本校において動画は授業での活用も含めて、非常に有効な手段であることがわかりました。

Zoom会議にしても、画面を通してではありませんが、子どもも教職員も笑顔になりました。ネット環境によって繋ぐことができない家庭もあることを踏まえながら、オンラインでの試みをしていく時代になったのだと実感しました。試行段階ではありますが、授業もこれからかたちを変えて提供していくことになっていくのだと思います。

○ 吉川 左紀子 議長（京都芸術大学（旧名称 京都造形芸術大学）副学長）

コロナウイルス感染拡大防止の対策がなされるなかで、本当にいろいろな試みが、様々な領域で進んでいることがよくわかりました。

園部委員の「おうちで料亭ごはん」とてもよいですね。片山委員の素謡「高砂」のリレーもそうですが、取組がバラエティに富んでいて、この危機的な状況が何か新しい可能性を開くきっかけになっているように感じました。

祥栄小学校の動画は、先生のお話しの仕方が思わず聞き入ってしまう声のトーンで、さすがだなと思いながら聞いていました。

それでは委員の皆さんが、この間どのような取組をされてきたかや、その他情報交換等させていただきたいと思います。

○ 本郷 真紹 副議長（学校法人立命館理事補佐、立命館大学文学部教授）



御承知のとおり、2月ぐらいから大学の授業をどうするかが問題になりました。特に私の勤務校では3万3千人ほどの学生がおりますが、その中で関西出身の学生は半分しかおりませんので、学生の移動という問題が当然出てくるわけでございます。実家に帰らせるのか、そのまま下宿に留めるのかということです。とにかくバラバラになってしまうと、いかんともしいというので、結局、苦渋の選択で卒業式も入学式も全部中止、授業は全てオンラインで一切、対話はしない。キャンパスも原則入構禁止の措置を取りました。

正課の部分、課外の部分、付随する学校のアドミニストレーションの部分と、社会連携、地域連携の部分、それぞれとどのように対応していくのかについて議論が重ねられた感がございます。

授業に関しては全てオンラインということで、残念ながら今年の新入生とは顔を合わせたことがないのですが、新年度に入ってから10回ぐらいが済んだこととなります。ほぼ、いろいろなノウハウというものについて周知が図られてきたのではないかと思います。私の個人的な感触では、発信することはさほど問題ありません。もちろん、いろいろ工夫は凝らしております。

基本的にはSkypeを使っていたんですが、容量の問題もあり、7月からはZoomとの

併用になります。大学によっては Google Meet を使っているところもあります。講義については、工夫を凝らして、ただ単純に画面を撮り切りというのではなく、レジュメ・資料を中に入れていたり、場合によってはビデオや画像等も交えたりしながら、教員が楽しんでいてはいけないかもしれませんが、よいものを作ることができるのではないかとこの感触を得ております。

双方向型のものに関しても、少人数であれば、教室でやるよりもオンラインの方が、むしろ有効ではないかと個人の感想ですが思っております。全員の顔が見えますから、居眠りできません。「君はどう考えている？」とすぐに当てることもできますので、非常にやりやすい。

けれども、20名を超えると無理です。20名全員が画像を上げるとサーバーが落ちてしまうので、発言者以外は画像を切るように指示していますので、その他の学生は何をしているかわかりません。授業の性格と規模によって変わってきます。

また、どうしても対面型でないといけないような内容、例えば理系の実験とか、人文社会系でも演習、実習というものは、オンラインではなかなか難しいのではないかと考えております。

幸い状況が落ち着いてきて、7月1日からは入構が許されるようになりましたので、実験系、実習系については7月からは対面型で授業をやろうかと考えていますが、前期はオンラインが原則ということになっております。

課外についても、ずっと中止しておりましたが、6月の中頃から、ちゃんと手立てを講じたうえで、条件が整うのであれば活動してもよいことになりましたので、徐々に再開してきております。

問題は正課の到達度検証です。つまりテストですね。一か所に集めて、同じ条件で「はい、始めて。はい、やめなさい。」ができません。また、オンラインでは絶対できません。聞き及ぶところでは、東大は大学院の入試を全部オンラインでやるそうですが、それはおそらく、手元に資料を置いていても解けないような問題を出すからであって、授業の内容をどの程度修めたかを検証し、成績をつけるとなると非常に難しい問題があると思います。また、入試は大きな課題です。文部科学省は大学入学共通テストを2回やるとおっしゃっていますが、第2日程の方を受けられると成績提供が間に合いません。1月末にテストがありますと、成績提供は2月15日前後になり、共通テストの成績だけで判定するタイプの入試はできなくなってしまいます。国公立大学の場合は、2月25日ぐらいから個別試験がありますが、私立の場合いわゆる「センター型」はどうすればよいのかと問題になっています。

もう一つは、そもそも試験を受けられるのかということです。医師の友人が申しますには、コロナに近い症状を訴えている患者さんにはインフルエンザの検査すらできず、まずは保健所に行ってください、ということになるそうです。10月以降インフルエンザが流行する時期に少しでもコロナ感染の疑いがある場合はお医者さんに行ってもどうしようがなくなるんです。そうすると受験生からすると、多少、熱があろうと、咳が出たり息苦しかったりしても、受験の機会だけは逃したくないという心理が働きますから、当然試験会場に出てきて、クラスターが起きてしまいます。このように到達度検証のところでは問題が生じています。

生涯学習に直接関わる部分として、私共では社会連携の一環としてキャンパスで市民

の方々対象のイベントをいろいろやっているのですが、現状は可能な限りオンラインでやっています。これからもオンラインでやろうということになっています。興味関心のある方が撮り切りのものでもビデオ形式で見ていただくということであれば、これからもできると思いますし、また、そういったものがメインになってくることでしょう。バリエーションも出てきてむしろよいかもかもしれませんので、やり方に工夫を凝らしていったらよいと思います。

おそらく第2波が来ると思うのですが、9月以降の秋学期についても、どうしても対面型でないといけないもの以外はオンラインでやっていくことを考えています。

ただ、学生の立場になって考えると、一日取っている授業のなかで、これは対面型、これはオンライン型と、どこでやるのか、例えば自分の部屋ならば良いですが、教室で横並びに座っていて、それぞれが違う授業を受けて、それぞれ違う内容を話していたら混乱すると思います。こういった環境をどうしていくのか、課題はまだあります。

- 吉川 左紀子 議長（京都芸術大学（旧名称 京都造形芸術大学）副学長）

ありがとうございました。大学の授業の在り方としては、良いところもあるけれどもまだ課題が山積しているということですね。

- 豊田 まゆみ 委員（京都市地域女性連合会常任委員）

女性会としましては、全体としての学習会、地域を巻き込んだかたちでの実践や文化財の見学等全てができない状況で9月以降の活動を考えているということになっています。前回の会議でも申しましたが、アナログ世代ですので、会員のほとんどがスマートフォンを持ってはいますが、活用はできていません。昨年夏でしたら、吉川議長の京（みやこ）まなびミーティングでのお話を伺いましたが、そういった講座の受講はオンラインでもできるはずなので、女性会も変えていかないとはいけません。やはり従来通りのやり方の方がやりやすいので、なかなか難しいと思いながら、説明を聞いていました。園部委員のお料理の情報も、女性会の会員はとても興味があると思うんです。ITの環境をそれぞれが整えないといけないというのが女性会としては課題かと思っております。



- 吉川 左紀子 議長（京都芸術大学（旧名称 京都造形芸術大学）副学長）

本当にITへのアプローチのしやすさというのは世代によって違いますね。

- 柁木 良子 委員（同志社大学日本語・日本文化教育センター嘱託講師）



同じく大学がオンライン授業ということで、私も急遽、2週目からZoomを取り入れて授業をしていますが、今までのようにパワーポイントも使えますし、グループディスカッションをするのにも優れていると感じました。ただ、学生たちも最初の1、2週間はスマートフォンしか持っていなかったため、パワーポイントの容量が重くて通信が切れまじりとか、Wi-Fi環境が自宅には無かったりとかで、出席がバラバラだったんですけども、3週目以降は全員出席できています。

YouTube で講義を流す先生やレポート提出のみの先生もいらっしゃいますが、私は本来の授業時間にオンタイムでやっていますので、実際に質問も受け付けられるので、学生は楽しんで受講してくれています。

環境が整っていれば、秋以降もやれなくはないのですが、ただ、やはり対面の良さというものがあって、私の授業も浴衣を着る実習とかフィールドワークとかがありまして、先日、オンラインで浴衣を着る試みをなんとかしましたが、直接、手助けができないもどかしさがありました。

せっかくの京都の立地を生かして、西陣を実際に見学するとかいうことができないのが悔しくてしょうがないです。

情報発信の仕方というのは、発信する側と情報を欲しい側、今は情報が Instagram, Facebook, Twitter といった SNS から紙媒体のポスター等までたくさんありますが、全部やっていかないといけない状態なのかと思います。昔の例でいうと、ビデオは VHS とベータがありましたが、今では両方使われることは一般的でなくなったように、いずれは淘汰されていくのだと思います。急変していく時代のなかでたくさん情報発信の仕方があります。私も旧人類ですから、街中のポスターとかチラシを見て、家に帰って検索をして、そこで申込みをしたりしています。新聞も良い情報があって、先日もキャンパスプラザ京都で学生の学習の支援として Wi-Fi 環境の整ったスペースとノートパソコン等を貸し出すという記事がありました。ただ、学生は新聞を取っていない人が多いので、私のオンライン授業で紹介しました。アナログとデジタルを共有しながらというのはこれからの時代必要なのかと感じました。

実際、自粛生活を自分自身していて孤独でした。他愛のない会話や外に出る、着物を着て出かけることは不要と言ってしまう必要なのですが、そういったことが心の豊かさに繋がりますし、展覧会に着物を着て、お化粧をして出かけるというのは、脳の活性化や、身体への刺激をすごく感じます。オンラインにはオンラインの面白さもありますし、教養を身に付けることもできるのですが、やはり体験すること、体感すること、人とのコミュニケーションの大切さをこの春、実感いたしました。

○ 吉川 左紀子 議長（京都芸術大学（旧名称 京都造形芸術大学）副学長）

本当に生活がガラッと変わる部分が多かったですね。これからも何を大事に残していくのかを判断する時期に来ているのかもしれない。

○ 鈴鹿 可奈子 委員（株式会社聖護院ハッ橋総本店専務取締役）



ちょうど娘を保育園に預け出そうかという時期に、このような状況になりましたので、ずいぶん長く外に出ていなかったという感覚であります。お話を聞かせていただいている、外に出ない間というのは、生涯学習、学ぶという意味では時間があってチャンスなのではないかと思います。私たちのお商売でも観光のお客様を相手にしている商品を作っているのが全社員出勤ということができず、工場の稼働日数も減らして自宅待機ということもしているのですが、自宅待機といっても、じっとしている訳ではなく、聞いていると楽器を買って演奏されているとか、キーボードがとてもしられて品薄だとか、料理をされる方が多いとか、本屋さんで

も本が売れているとか、そういう話を聞くと、学びのチャンスというのは家にいる時間、とてもあるのではないかと思いましたが、「おうちで生涯学習」としてこれだけ迅速に対応して、たくさんの情報発信をされていることに驚きました。あいている時間に自分のまわりのことを知ることができるということで、実際に授業を受けられる方もですし、家で時間を持て余している子どもたちも、こういったものをどんどん活用されたら良いなと思いました。先ほどから、皆さんがどこまで知っていただいているのかという話がありましたけれども、こういう機会ですし、皆さんに知ってもらって活用してもらいたいなと思いました。

大学や学校でオンライン授業をしていることについてですが、タブレット等を持っていない世帯が全体の15%ぐらいいらっしゃるということで、環境が整っていなかったり、1台あっても兄弟姉妹で授業を受けるにはどうしたらよいのかとか、課題は多いのだと思いますが、オンラインだからこそできることもたくさんあると思いますし、制度が整って、みんなが見られるようになれば良いなと思います。先ほどの祥栄小学校の授業は、本当に面白いですね。子どもが楽しく学べるのも当然ですが、学校でこういう授業をされているのを親も見るができるというのがプラスアルファで楽しいなと思いました。

娘が保育園に通いだしたんですけれども、6月までお休みになりました。その間、動画配信があり、1歳なので見たり見なかったりしてはいたんですがZoomで週に1回、先生と1対1で話をする機会を設けてくださって、先生とお話できていたので6月からは泣かずにすなりと預けることができました。先生方がおっしゃったように、やはり配信だけでなく、対話というのが大事なんだと思いました。人数が多いと難しいのですが、子どもにとっては名前を呼んでもらうのが違うみたいで、先生に名前を呼んでもらうとすごく喜んでいました。私が委員をしている幼稚園にお聞きした話では、配信でも一人一人の名前を全員呼んでいるそうです。配信のかたちでも、こちらがみんなのことを考えているんだよと伝えるのは小学生でも有効なのではないかと思いました。

○ 吉川 左紀子 議長（京都芸術大学（旧名称 京都造形芸術大学）副学長）

ありがとうございます。オンラインでのやりとりをどれだけ効果的に活用していくかは、学校はもちろんのこと、いろいろな場面で大事になってきますね。企業での仕事のやり方にも影響があると思います。また、名前を呼ぶことの大切さがよくわかりました。

今日はZoomで参加の田村委員が「京（みやこ）まなびネット」について御意見があるとのことですのでお願いします。

○ 田村 穂絵 委員（市民公募委員） ※オンライン出席

「京（みやこ）まなびネット」をスマートフォンから見させていただきました。大きく3つ意見があります。

まず、イベント・セミナー検索の画面ですが、曜日指定ができるとう便利だと思いました。例えば、6月の土日だけ参加したい時に今のかたちだと検索しにくいと思います。

次に実施場所ですが、京都の土地勘のある人でしたら住所だけでもわかりませんが、そうでない方のために最寄り駅を掲載したり、地図アプリと連動させて地図が確認できるようにしたり、地域ごとに検索できるようになると個人的にはより便利に簡単に活用できるのではないかと思います。

また、イベントやセミナーの参加者の年齢層や性別比がわかるようにすると初めて参加する方にも雰囲気伝わりやすいのではないかと感じました。

○ 廣岡 和晃 委員（日本労働組合総連合会京都府連合会会長）

労働組合では会議の場合は、双方向でのやりとりになります。オンラインで47都道府県を結ぶと臨場感はありますね。今まで東京に集まって会議をしていたことを考えると、今後、こういったやり方は必要になってくると思いますし、会社においてもなんでも東京に集まってやるということは無くなってくのではないのでしょうか。



私が大学で講義をさせていただいているものについては、双方向ではなく一方通行です。パワーポイントと自分の話してる姿をZoomで映しますので、学生さんはパワーポイントの資料を見ながら私の話を聞くというかたちになります。一方通行ですので、質問はまとめて受け付けます。ただ、繰り返し、いつでも見たい時に見ることができるのはオンラインも非常に有効だと思います。生涯学習についても同様で、子育てに忙しい方や働きながら学ぶ場合、見たい時に見られることは非常によいことです。

もう一つ、時代が変わってきているというのは、グローバルでオンラインが始まっています。好む好まないに関わらず、既に世界各国で、例えば塾でも日本に限らず世界で授業をして配信することが当たり前になってきています。そういった意味で時代はどんどん変わってきております。先ほど申しましたようなメリットがありますので、否応なしにオンライン講座というのは広がっていくと思います。

「京（みやこ）まなびネット」について、うまくまとまっていると思いますので、私自身はこれだけのことができていないことを知りませんでした。情報発信さえすればやっていけると思います。

無償と有償というところが社会的にどうなっていくのか気になっています。現在はコロナの関係でいろいろなものが無償発信されていますが、いずれ落ち着いた時に、どれにお金がかかって、どれにお金がかからないのかという部分です。資格を取る講座は基本的に有償だと思いますが、そうしたこともどこで線引きがされるのかが気になる場所です。行政が発信する部分についても、その視点が漏れないようにと思います。基本的には今後、オンラインは広がっていきますので、そういったことを吟味しながら有効活用できればと思います。

○ 吉川 左紀子 議長（京都芸術大学（旧名称 京都造形芸術大学）副学長）

ありがとうございました。グローバルな視点から考えることは本当に大事ですね。世界中の資料が使える環境になってきますので、教材の考え方も随分変わってくるのではないかと思います。それから経済の視点ですね。今はまだルールがなくて、一人一人の感覚で有償・無償を決めているような状況ですから、これから大事になってくる問題提起でした。

○ 大澤 彰久 委員（平成30年度京都市PTA連絡協議会会長）

PTAでは小学校が休校中、保護者から早く学校が再開してほしいとか、ICTの環境

が整っていないとか、いろいろな意見がありました。普段そういった意見があれば、幼稚園、総合支援学校、小学校、中学校、高等学校とそれぞれの校種ごとの連絡協議会に各校、各支部から意見が集まって、連絡協議会がそれをまとめて、教育委員会と教育懇談会という場でディスカッションするのが通常の流れなんですけども、こういった人が集まることができない場合、どうやって保護者の意見を吸い上げるかということで、PTAのメール配信の機能がありますので、登録いただいている保護者の方にアンケート調査を5月に実施させていただきました。

本当に様々な意見があり、「感染が心配だから、学校再開はまだ反対だ。」という意見から「早く学校を再開してほしい。」までありました。給食に関しても「衛生面を考えると時期尚早ではないか。」や「給食を早く出してほしい。」というものがありました。先ほど、松岡先生からも御紹介があったICTを活用した教材に関しても、「低学年の場合、保護者が一緒にいないとできない。」とか「環境はまだまだ整っていないが、進めてほしい。」とか、本当に様々でした。4万9千ぐらいメール登録していただいているんですが、2万1千ほどの回答をいただきました。自由記述欄にも9千件ぐらいありまして、取りまとめた方には本当にお世話になりました。我々、PTAの立場からしましても、どちらがよいかというのは判断が難しいところでしたが、こういった様々な意見があるということを、在田教育長をはじめ教育委員会の皆様にお伝えさせていただきました。この件につきましては市会の方でも取り上げていただきました。GIGAスクール構想も補正予算を組んでいただいて、従前よりスピードアップして取り組んでいただいております。

いろいろな課題はあるのですが、コロナでみんなが会えないということで、アンケート調査を行い、保護者の声を直に聞くことができたのは、一つの成果であったかと思っております。これをPTA活動もそうですし、教育委員会の方でも活用していただければと考えております。

○ 吉川 左紀子 議長（京都芸術大学（旧名称 京都造形芸術大学）副学長）

ありがとうございました。アンケートでそれだけ多くの意見が集められたのはすごく意義のあることですよね。今後、うまく活用していけるとよいですね。

○ 大澤 彰久 委員（平成30年度京都市PTA連絡協議会会長）

様々な意見があったのでバランスが非常に難しいですが、活用していけたらと思います。

○ 櫻井 寿美 委員（市民公募委員）

1月に新年を迎えたときには、この状況を誰も想像できなかったと思います。たった半年でこれだけ急激に社会が変わったというのは、この時代に生きる私たちしか経験できなかったことだと感じています。

皆さんのお話を聞いていて、特に学校教育の現場では、今回の転換というのはこれから繋がっていくことで、今後も活用していただきたいと思っています。また、社会教育においても、今は過渡期なので、「できる。できない。」はあると思いますが、1、2年もすれば、今回の社会変化を



上手く捉えられるような社会が来るような気がします。

私も仕事の関係で高齢の方と接する機会が多いのですが、この2 か月はお会いすることはできませんでした。6月に入ってようやく、その機会が増えてきてお聞きするのが「この2 か月は一歩も家から出なかった。」ということです。もちろん新型コロナウイルスも怖いのですが、生涯学習の中でもスポーツの分野で「家を出なくもよい部分」と「外にでていく部分」の住み分けを考えていく必要があると考えています。

それから、様々なSNSがありますが、90歳近い方でLINEを使いこなしている方がおられ、単純に「高齢者＝情報弱者」という訳ではないと感じています。これからも良い方向に社会が変わっていけばと思いました。

○ 森 清頭 委員（清水寺執事補，上智大学グリーンケア研究所非常勤講師）

※オンライン出席



まず「新しい生活様式において」ということでございますけれども、お寺のことを知っていただくということで、動画配信を始めたりました。実際、オンラインというものにつきましては、場所と時間の制約を受けないという特徴があるかなと思います。その時間に、その場所へ行かなければならないということが制限されないということです。動画も収録されたものがあればいつでも見ることができますので、生涯学習においては、とても自由度が高まったというメリットがあるのではないのでしょうか。ただ、デメリットとしましては、皆でその場所に行きまして直接顔を合わせて、友達、仲間を作るといったようなことは難しくなりますが、少しずつでもクリアして、できることから進めて、実際の会話や交流ができればと思います。

場所と時間の制約を受けないというメリットについては、日本全国から京都の発信する特色あるお話を聞くチャンスができるということですから、より広く京都だけで考えずに日本全国、また廣岡委員が「グローバル」とおっしゃったように世界に向けて届けることができます。

小学校でのコンテンツのお話がありました。子どもたちには直接触れ合いながらの学習が大変大事かと思えます。さりとて、社会を取り巻く環境がこのような状況でございますので、画面を通しての学習も有効かと思えます。家庭においてはインターネット環境やパソコン等の整備が課題になってまいります。Wi-Fi もデータ容量を無制限にしておかないと、費用面で大きな負担が生じますし、パソコン等も例えば、二人で1台だと発言権が半分以下になってしまうように思いますので、一人1台ないと厳しくて、そのことも経済的な負担になってまいります。

私の大学でも授業がオンラインになりましたが、先ほどの祥栄小学校の取組のように、今後、小学校でも先生方がこういったコンテンツを作っていくことになるのかなと感じています。その場合、得意な先生がコンテンツを作って、苦手な先生は負担が集中しないようにサポートしながら役割分担することで、良いものが作っていけるのではないかと思います。

「京（みやこ）まなびネット」に関しては、田村委員のおっしゃったように日付については、私も見にくいかなと感じたことと、アドレスを登録された方に定期的にメールマガ

ジンを配信できるようになれば面白いかなと思いました。また、実際に講演会や勉強会に実際に行くとなるとお金がかかってきますので、将来的には有料サイトについても視野に入れてもいいのかなと思います。

インターネットについてはメリット・デメリットがとてもはっきり出ますので、慎重に進めなければなりません。現状を考えると、時間と場所の制約を受けないメリットを活用することができたらと考えております。

- 吉川 左紀子 議長（京都芸術大学（旧名称 京都造形芸術大学）副学長）
様々な立場の方からのいろいろなアプローチの仕方を集約して方向性が見出せたらと思います。

- 稲垣 恭子 委員（京都大学大学院教育学研究科教授）
私もオンラインでの授業等を急にやるようになって、意外に便利なところがあるなと気付くことができました。授業と会議が主ですが、会議は、例えば東京での会議と京都での会議を同じ日に参加できるということで、会議の参加率が高くなります。7月に同窓会を開催されるのですが、同窓会の総会を、今年はオンラインで行うことにしたところ、これまでなかなか参加者が増えなかったのに、出席の返事が3倍以上になり、驚いています。そういうことを考えると、いろいろな制約を超えてグローバルに開かれていく可能性というものがあるように思います。また、ゼミでのグループディスカッションも意外にうまくコミュニケーションが取れるようになっているのは発見でした。

一方で工夫の余地があると感じているのは、全て言語化した情報に詰め込んで伝えないといけないので大変です。そして自分にとって何が大切か、面白いか、詰め込まれた情報をかみ砕いて何段階かに場の設定を変えていく、フォーマルからインフォーマルにしていくグラデーションの場が必要だと感じていて、授業では通常より10分早く切り上げて、最後の10分はインフォーマルなディスカッションの場にしようということで、何でも自由に言える場を作っています。

今回、生涯学習の部分で、本当に多くの講座を開設して、また広報もいろいろとされていることが、改めてわかりましたが、たくさんあることで、その多くの情報からどうやって絞るのか、何を選んだらよいのか、かえって難しくなる面もあるかなと思います。それをミディエーター（仲介者）のような存在、例えば、大学では情報をインフォーマルにする時に、私ではなく大学院生が相談役をしてくれているんですが、相談や問合せを受けて気軽に「こうしてはどうですか？」と答えられるようなポジションを、既に置いておられるかもしれませんが、検索ではうまくヒットしなかったりもするので、電話で聞くとか、チャットでも「こういう時、どうしたらよいのでしょうか？」とストレートに聞きやすい仕組みがあったらよいのかなと思いました。

- 吉川 左紀子 議長（京都芸術大学（旧名称 京都造形芸術大学）副学長）
インフォーマルな時間をちゃんと作るというのは、よいアイディアだと感じました。新しいいろんなコミュニケーションのやり方、スキルが発展していく時なのかもしれないですね。

- 園部 晋吾 委員（NPO法人日本料理アカデミー地域食育委員会委員長，山ばな平八茶屋若主人）
新しい生活様式ということですが，我々の仕事はあくまで対面式が絶対的なものでありまして，今まで非対面というものは考えたことがありませんでした。

京都料理芽生会の会長をさせていただいて，今年で任期を終えるのですが，いろいろな事業を考えておりました。子ども向けの事業，会員に向けた事業，諸々あったのですが，今年の3月の時点で今年の全ての事業を中止にしました。この時点での決断は，今になって大事なことだったと思っています。それによって引きずられなくて済むからです。開催されるかどうかわからないままでは，一生懸命準備に多くの時間を費やすことになってしまいます。中止の決断をすることで，次に「おうちで料亭ごはん」のようにインターネットを活用した新しいアイデアが出てきたり，そういったことを考える余地ができました。100パーセント対面だった我々の仕事のなかに，非対面という考え方が入ってきたことは，我々にとってとてもプラスだったのかと思います。これによって選択肢が増えたということです。今日の会議形態は理想的だと思います。対面式でも，非対面でもどちらの参加でもよいですよ，ということで機会も増えるし，選択肢も増える。こういったかたちは，今後の生涯学習で推奨されていくとよりよいのではと感じています。

- 石川 一郎 委員（京都新聞社論説委員長）



新聞社というのはアナログな世界でして，最近はネットでも積極的に発信はしているのですが，やはり対面で取材をするというのが基本です。そんななかで，こういう事態になって，京都新聞は論説もテレワークを導入しました。実は4月の下旬から5月いっぱいまでテレワークで社説を毎日書いておりましたが，やってみたら意外とうまくいきました。これは新しい発見でした。本日は皆さんからオンラインのメリットを紹介いただいて，私も発見した部分がありました。ただ，直接，自分の手でいろいろ調べるということを考えると，なかなか乗り越えられないところがあるかなとも感じています。特にこの期間中，京都市の図書館が閉まってしまったのは，私にとっては大きな痛手でした。ネットである程度の表層的なことはわかっても，そこから更に突っ込んで何かを調べようと思うと，やはり紙のものに当たるというのはとても大事なことです。図書館はアナログではありますが「知の宝庫」という部分があって，これからの時代，オンラインを主体としながらも，そこにどうやってアクセスしていくのかというのは難しいテーマとしてあるのではないかと思います。すべてが手探りではあるかと思いますが，オンラインをどう活用していくかを始まったばかりですので適宜，検証していくことが大事かと思っています。

■ 議事-3 令和2年度「全国社会教育研究大会」について

■ 報告 令和2年度「指定都市社会教育委員連絡協議会」について

- [配布資料 令和2年度「全国社会教育研究大会」について](#)

- 事務局から

- ・まず，報告からさせていただく。北九州市で開催予定だった，令和2年度「指定都市社会教育委員連絡協議会」については，前回の社会教育委員会議において吉川議長に御参加いただくこととしていたが，新型コロナウイルス感染拡大防止のため，今年度は書面

での開催へと変更となった。

- 全国社会教育研究大会新潟大会については、全国の社会教育委員や社会教育関係者が集って協議や情報交換を行う場として設けられている。
- 昨年度は神戸で開催され、田村委員に御出席いただいた。
- 今年は新潟県長岡市で11月12日、13日に開催される予定。
- 委員お一人と事務局から1名の参加を考えている。
- 委員の御参加については立候補がないようであれば、後日、議長と相談のうえ個別にお声かけをさせていただきたい。

■ 主催事業 及び 刊行物の案内・説明

○ 事務局から

- 学校歴史博物館の関係資料をお配りしている。近代京都の自然教育に関する企画展で、現在のSDGsにも繋がるものになっている。ノーベル賞受賞者の学校の関係も示されており、あまり知られていないが興味深い内容を紹介している。
- この総合教育センターからもすぐ近くで御幸町仏光寺を下がったところにあるので、委員の皆様もよろしければお立ち寄りいただきたい。

■ 閉会（吉川議長）

■ 閉会挨拶（大黒生涯学習部長）